

芝浦工業大学 交換留学プログラム 参加後アンケート

海外派遣プログラムに参加したみなさまに、海外での経験を今後の学生に共有していただくため下記アンケートの記載をお願いしています。
記載いただいた内容は、芝浦工業大学のWebサイトやパンフレットに掲載いただくことがありますので、その前提でご記入をお願いします。
「留学するかどうか、もしくは留学先をどこにするか等、判断を迷っている後輩向け」という視点で記入をお願いいたします。

留学者情報			
・ 学籍番号	AG22010		
・ 氏名	ウォンカム 真生路		
・ 学部	工学部		
・ 学科(コース等)	電子工学科		
・ 学年(渡航開始時)	4		
・ ウェブ等への体験談掲載への同意	☒ 氏名も掲載してよい ☐ 学部・学科まで掲載してよい ☐ 完全匿名での掲載を希望		

留学先情報			
・ 渡航型/オンライン型	☒ 渡航型 ☐ オンライン型		
・ プログラムタイプ	☐ 授業履修型 ☒ 研究室配属型		
・ 国・地域名	イギリス		
・ 都市名	ロンドン		
・ 留学先大学名	ロンドン芸術大学		
・ 留学期間	☐ 3ヶ月未満 ☐ 3ヶ月～半年（1セメスター程度） ☒ 半年～1年（2セメスター程度）		
・ プログラム期間	プログラム開始時期 (2021年9月上旬等)	2025年2月上旬	プログラム終了時期 (2021年9月上旬等)
・ 留学時期 (主に留学をしていた時期にチェック をお願いします)	☐ 1年前期 ☐ 修士1年前期 ☐ 1年後期 ☐ 修士1年後期 ☐ 2年前期 ☐ 修士2年前期 ☐ 2年後期 ☐ 修士2年後期 ☐ 3年前期 ☐ 博士以上 ☐ 3年後期 ☒ 4年前期 ☐ 4年後期		
・ 上記協定校を志願した理由を教えてください。	私がロンドン芸術大学を志願したのは、留学先の指導教員に研究テーマを相談したことが決め手でした。ロンドン芸術大学はアート&デザイン分野で世界トップクラス(世界2位)であり、優秀な学生と交流できる環境に強く魅力を感じました。特に、私の関心であるアートとロボティクスを融合した研究を行うクリエイティブロボティクスラボの存在を知り、「ここで挑戦したい」と思いました。		
・ (研究室配属型のみご回答ください) 受入大学の指導教員をどのように探 したか教えてください。 (SIT指導教員の紹介等)	芝浦工業大学で所属している研究室の指導教員に紹介していただきました。		

留学中の学籍について	
・ 休学の有無	☐ 休学をした ☒ 休学しなかった
・ 休学せずに渡航した方は、休学せずに渡航できた理由を記載ください。 (留学が必須の学科だった、必修科目が渡航時期になく単位も十分に 取り終えており、かつ指導教員の許可も 得られ、就活前に帰国することができ たため、等)	卒業研究以外の必修科目・単位は十分取り終えており、留学先での研究内容を卒業研究として運用する許可を得られていた。また、卒業後は修士課程に進学することを決めていたため、就活をする必要がなかった。

留学先での学習・研究状況

- 留学先での学習・研究状況につき、概要を記載してください。

留学では「ロボットによるスタンダップコメディ」の研究に取り組みました。前半は会話型ロボットシステムを開発し、観客を交えた実験を実施。その成果をロボット系の国際学会 (ICSR 2025) へ投稿しました。後半はシステムや実験デザインを改良し、60名以上の観客の前でパフォーマンスを実施。最終的にはアート系のジャーナル (IJPADM) にもまとめることができました。当初の目標を超える成果を得ることができ、留学終了後にはドイツで研究計画を進めながら、イタリアで国際学会発表も行いました。研究環境としては、平日9時～18時を研究に充て、週1回のミーティングで複数の先生からフィードバックを受けられるなど、研究活動を後押ししてもらえる環境でした。

- 授業を履修した場合、具体的な科目の情報教えてください。
(たくさん履修した場合は適宜追加して記載してください。また科目概要など、欄に収まらない場合は、適宜行の幅を大きくして記載してください。)

科目名①	卒業研究1	単位数 (現地単位数)	4
科目概要	「卒業研究2」で必要な研究室単位での研究活動の基礎を学ぶことを目的とする。学生の希望に従って各研究室の教員に配属し、その教員の指導のもとに、卒業研究に関連した専門性の高い課題を通し、背景や問題点を収集し、自ら課題を解決できる能力を身につける。実施形態は研究室によって異なるが、教員との話し合いで課題を決定し、実験・実習・調査等の方法や手段を学び、得られた結果に対して解析・考察することを基本とする。レポートやプレゼンテーションによって評価を行う。		
科目名②		単位数 (現地単位数)	
科目概要			
科目名③		単位数 (現地単位数)	
科目概要			
科目名④		単位数 (現地単位数)	
科目概要			
科目名⑤		単位数 (現地単位数)	
科目概要			
科目名⑥		単位数 (現地単位数)	
科目概要			

留学先での学習・研究以外の交流活動

- 交友関係、部活、サークル、日常生活などで特筆して後輩に伝えたいことを記載してください。

配属先のラボは少人数で、最初は研究仲間がいない環境でした。けれども、自分から積極的に声をかけたり、同じロボットを課題で使っている学生を手伝ったりするうちに友人ができました。Exhibitionと一緒に回ったり、週末にレライブへ行ったり、バブで夜遅くまで語り合ったりと、研究以外の時間も大切に過ごしました。現地の家庭に招かれて夕食を囲んだ経験もあり、文化の違いを肌で感じられる貴重な体験になりました。

ラボには「テクニシャン」と呼ばれる技術スタッフが常駐しており、私のラボでは機械学習とロボティクスの専門家が学生を日常的にサポートしてくれました。研究の助言だけでなく、一緒にゲームや雑談を楽しむ仲間でもあり、研究と生活の両面で心強い存在でした。

また、トビタテ留学JAPANで知り合った友人と、イギリス各地やドイツのベルリンで開かれた日本文化交流イベントに参加したことも印象に残っています。異国の地で日本人同士や世界中の学生と繋がる場合は、自分のアイデンティティを考えるきっかけにもなりました。

6か月の研究留学を終えた後、イタリアでの学会に備えてドイツで旧友と1か月生活しました。週1でBBQをしたり、公園でビールを片手に語り合ったりする時間を通して、短期間ながら現地コミュニティに溶け込み「その国の一部になれた」と実感しました。

総じて、これから留学を考えている学生に伝えたいのは、学生時代にしかできない経験を逃さないでほしいということです。社会人になると立場や役割を意識してしまいがちですが、学生同士ならフラットな関係を築けます。これは海外に行っても急にできるものではなく、日本に在るうちから準備が可能です。芝浦工業大学には国際学生寮や留学生と交流できるイベントがあり、日常の延長で世界とつながれる環境があります。アルバイトの1シフトよりも、国際交流イベントに一度参加することの方が、人生に大きな影響を与えてくれるかもしれません。

小さな一歩を重ねることが、留学先での大きな挑戦につながります。芝浦の環境を活かして、ぜひ世界へ踏み出してください。

自由記述欄

- 留学で感じたこと等、自由に記載してください。
(当初の留学計画を達成できたか、新たな発見があったか、どのような苦労があったか、留学前に準備しておけばよかったと振り返って感じることはあるか、後輩へのアドバイス、等なんでも結構です。)

留学の研究目標だった「国際学会への論文投稿・採択」は、想定よりも早く前半3か月で達成できました。その後モチベーションが下がる時期もありましたが、計画を見直して後半にはもう一本の論文をまとめることができました。最後の1か月は周囲の学生が夏休みで不在となり、一人の時間を活かして一気に論文を仕上げるなど、研究と自分のペースの両立の大切さを学びました。

ロンドンは多国籍な環境で、インド・メキシコ・中国・イランなど様々なバックグラウンドを持つ学生が集まっていました。世界的ネットワークを築くには最適な場所であり、交流を通して「伝えたい思いがあるから英語を学ぶ」という強い動機が生まれ、自然と英語力も伸びました。英語は目的ではなく手段であると実感しました。

また、異なる文化に触れる中で、日本では「当たり前」と思っていたことを見直す機会もありました。例えば、友人同士での率直な距離感、限られた勤務時間で最善を尽くす姿勢など、日常の小さな積み重ねが文化を形作っていることを実感しました。ロンドンやドイツでの生活を通して「嫌なものは嫌と言える」「一人の時間を確保する」といった、自分にとって心地よいライフスタイルを見つけることもできました。

一方で、日本の文化を尊重する大切さも再確認しました。海外生活で少し時間にルーズになり、日本向けの研究発表で単位を落としかけた経験もありました。フォーマルな場で時間を守る姿勢は、日本の強みとして大切に残していきたいと感じました。

留学手続き時に苦労した点

- ・ 協定校への出願時に苦労した点や、後輩へのアドバイスがあれば記載ください。(提出すべき書類、準備が大変だった書類など)

日本で配属されている研究室の指導教員に留学先の指導教員を紹介していただいたため、個人で探すよりもスムーズに出願できた。留学先を決める際は、国や大学名だけでなく、研究内容や研究室の機具を調べることは前提として、留学先の指導教員にアドバイスを求めるべきだと思う。その際は、どのような研究をやりたいかを説明できるように、プレゼンテーションを準備することをお勧めする。また、基本、メールの返信は質よりスピードが大事だと思うので、長くても1週間は空けないようにした方がいい。考える時間が欲しい場合は、まだ考え中であることをメールで伝えた方がいいと思う。
- ・ ビザ申請など、渡航準備時に苦労した点や後輩へのアドバイスがあれば記載ください。(提出すべき書類、準備が大変だった書類など)
(渡航型プログラムのみ。オンライン型は記入不要です。)

パスポートを紛失:
ドイツ・ミュンヘンでパスポートを紛失しました。地下鉄やバス、路面電車、地上鉄道などを統括する忘れ物センターや行政窓口にお問い合わせしましたが、結局見つかりませんでした。2025年から日本のパスポートは日本国内でしか発行できなくなったため、再発行して海外に送ってもらうと1か月以上かかります。幸い国際学会の発表を控えていたため、大使館で「緊急旅券」を発行していただき、無事に発表と帰国ができました。ただし緊急旅券はすべての国で有効ではなく、当初スウェーデン経由の便を予約していたものをキャンセルし、急遽新しい航空券を購入する必要がありました。また、緊急旅券発行の際には戸籍謄本の原本が必要で、母に1万円かけて国際郵便で送ってもらい、3日後に受け取ることができました。これを機に、海外渡航には戸籍謄本の原本を携帯すべきだと痛感しました。
ビザと滞在期間の注意点:
もともとは1年間の研究留学を希望していましたが、ビザの関係で半年間に短縮されました。卒業研究の単位は前期・後期とも認められる予定でしたが、私が留学した年の規定では学生ビザが取得困難であり、「半年間なら旅行ビザで」と留学先の先生に言われ、希望通りの1年滞在はできませんでした。この経験から、希望する留学期間はできるだけ早く日本側・留学先の双方に伝えることが重要だと学びました。さらに、ビザの滞在可能日数は1日でも超過すると、再入国できなくなる可能性があります。私はこの規定を知らず、滞在期間を数時間オーバーする航空券を購入してしまい、キャンセルせざるを得ませんでした。特にイギリスの観光ビザは「1年間に半年」と記載があるものの、入国ごとにリセットされるかどうか明確でないため、日数に余裕を持って行動することが大切です。
- ・ その他、準備にあたり、後輩にアドバイスがあれば自由に記載してください。

パスポートを紛失した場合、日本のパスポートは海外で即日再発行できない → 緊急旅券での対応になる(ただし、学会発表など滞在理由がなければ発行できない)
緊急旅券は入国できない国もある → 経路便のルートに注意
緊急旅券発行には戸籍謄本の原本が必要 → 事前に持参しておくこと
ビザの滞在日数は1日単位で厳格 → 航空券は余裕を持って手配すること
留学期間の希望はできるだけ早めに伝えること → 柔軟に調整できる余地を残す

滞在先の宿泊施設などの情報 (渡航型プログラムのみ。オンライン型は記入不要です。)

- ・ 宿泊先のタイプを教えてください。
(協定校の寮、一般のアパート、ホームステイ等)

ホームステイ
- ・ 上記宿泊先はどうやって手配しましたか？(出願時に協定校に依頼することができた、協定校から紹介してもらった、自分で探した、等)

自分で探した。Homestay.com というサイトで見つけた。ホームステイ以外も視野に入れば、SpareRoom もおすすめ。合計20軒ほど申し込み、OKが来たところから一番いい所を選びました。
- ・ 現地空港到着後、どうやって上記宿泊先に向かいましたか？
交通手段や所要時間を教えてください。

電車とバス。親戚がロンドンの近くに住んでいたため、電車とバスで親戚の家にいき、親戚の家に2日ほど宿泊してから車でホームステイ先へ送ってもらいました。
- ・ 上記宿泊先から日々協定校へはどうやって通学していましたか？交通手段や所要時間を教えてください。

歩きか自転車。歩き25分程度。自転車はホームステイ先の方が貸してくれました。
- ・ 上記宿泊先の様子を教えてください。広さ、住み心地等。

私はロンドンで、ホームステイ先のご夫婦と2匹のネコと一緒にフラットで生活しました。自分の部屋は大きなベッドが2つ入るほどの広さで、小型の冷蔵庫も用意していただきました。ただ、机が小さかったため部屋では作業せず、研究室や図書館、カフェを利用して勉強をしていました。食事や洗濯は自分で行いましたが、共有スペースの掃除はオーナーが担当してくれたので、生活リズムを整えやすかったです。滞在した町(Brixton)は治安があまり良くないと言われる地域でしたが、留学中に大きなトラブルに巻き込まれることはなく、安心して生活できました。

留学中の費用や奨学金等（渡航型プログラムのみ。オンライン型は記入不要です。）

概算で結構ですので、参考までに記入してください。

初期費用

内訳	金額(円換算概算)	概要
協定校へ支払った費用 (授業料、初期登録費用等あれば)	¥0	研究留学だったため、学費は支払う必要がなかった。
往復航空券代(往復)	¥299,690	往復直行便(251190)+変更手数料(48500)
海外旅行保険・危機管理費用 (全期間分)	¥135,460	7か月分
その他費用(ビザ申請、パスポート取得費等、英語試験受験料等)	¥12,336	UK ETA (2058+3453)+ 緊急旅券(€39), 1€=175円
計	¥447,486	

1ヶ月あたり費用

内訳	月額金額	概要
宿泊費/月	¥142,000	宿泊料(£4,226.67)+手数料(£125.00), 1£=195円
食費/月	¥20,000	外食を含まない
その他/月	¥50,000	交際費・交通費など
計	¥212,000	

奨学金情報

奨学金名	月額金額	概要
芝浦工業大学海外留学奨学金	¥0	トビタテとの併用不可のため申請しなかった
トビタテ！留学JAPAN奨学金	¥160,000	給付。文部科学省主催の留学奨学金。
JASSO 第二種	¥110,000	貸与
計	¥270,000	

写真共有のお願い（渡航型プログラムのみ。オンライン型は記入不要です。）

留学中の様子が分かる写真を4枚ほど共有ください。またそれぞれの写真に説明分を加えて下さい。
写真はそのまま掲載しますので、掲載してもよい写真を貼り付けてください。

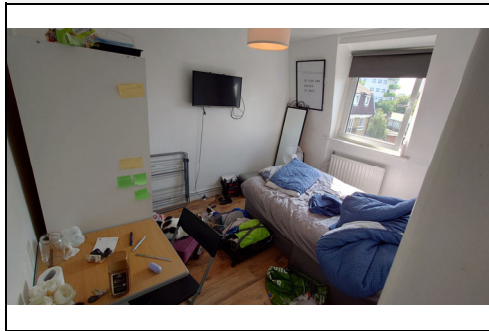
大学のシンボルとなる建物の写真等をお願いします



説明文

通っていた研究室がある建物

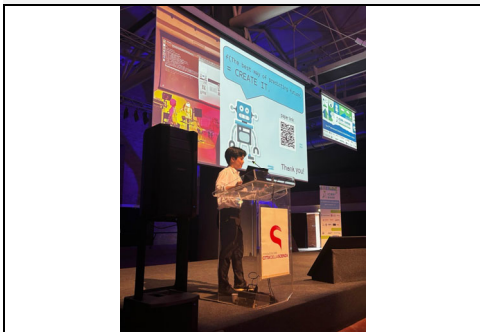
宿泊先の様子が分かる写真等をお願いします



説明文

ホームステイ先の寝室(自分の部屋)

その他、任意の写真



説明文

イタリアでの国際学会ICSR 2025での研究発表

その他、任意の写真



説明文

ロンドン芸術大学でのロボットコメディパフォーマンス

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。